

## 世田谷ケアマネジャー連絡会からの報告 －アンケート調査からみたコロナ禍におけるケアマネジャー－

世田谷ケアマネジャー連絡会  
相川 しのぶ、佐藤 健平、渡部 幹、石井 琢也  
斎藤 きみ子、杉本 義子、渡邊 尚美、森川 敦子  
(ケアマネジャー コロナ禍 実態調査)

### 1 はじめに

2020年1月に日本で初めての感染が確認された新型コロナウイルスは、未だに感染拡大が続いている状況にある。感染防止策の長期化は、高齢者や家族の生活に大きな変化をもたらし、また、医療機関や介護サービス事業者等にも重大な影響を及ぼしている。このような状況において、高齢者やその家族の生活を支える支援を行うケアマネジャーは、どのような実践を行っているのだろうか。世田谷区在住勤務等のケアマネジャーの職能団体である「世田谷ケアマネジャー連絡会」は、区内居宅介護支援事業所及び区内高齢者施設に勤務するケアマネジャー・主任ケアマネジャー、計画作成担当者を対象に、実態調査を行った。発表では、居宅・施設各々のアンケート結果を報告するとともに、コロナ禍におけるケアマネジャーの役割や課題等について考察する。

### 2 調査概要

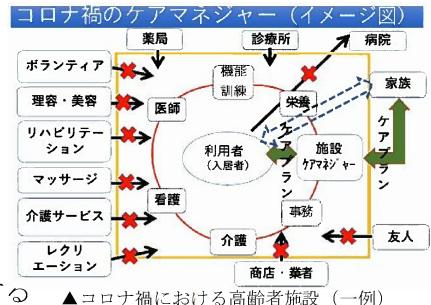
#### (1) 対象

**【居宅】**世田谷区内に所在する居宅介護支援事業所248ヶ所

に勤務するケアマネジャー及び主任ケアマネジャー

**【施設】**世田谷区内に所在する高齢者施設計145ヶ所に勤務する

ケアマネジャー、主任ケアマネジャー及び計画作成担当者



#### (2) 調査方法

- ・主任ケアマネジャーと施設ケアマネジャー各部会にてアンケート調査項目を作成
- ・ファクシミリにてアンケート用紙を配布・回収

#### (3) 調査実施期間

**【居宅】**2020年6月16日～6月23日

**【施設】**2020年8月5日～8月17日

(対象期間は2020年1月～7月)

#### (4) 回収率

**【居宅】**61.7% (回答153人)

**【施設】**30.1% (回答43人)

### 3 調査結果概要

**【居宅】**労務環境／ケアマネジメント業務の実施状況／業務上の課題／利用者や家族等に生じた新たな課題（利用者や家族に対して・行政情報等に関して・判断や対応）／区への提言  
＊利用者・家族等に生じた新たな課題：サービス控え、心身機能の低下等

**【施設】**施設運営体制の状況変化／利用者の変化／ケアマネジャーとして留意したこと（利用者や家族、関係機関に関して・施設ケアマネジメントに関して）／施設ケアマネジャーの役割  
＊利用者への影響について：面会制限、余暇活動等縮小→体力・認知機能・生活の質低下等

#### 4 むすび

私たち世田谷ケアマネジャー連絡会は、現場で起こっていることを把握し、それを声に出して地域や行政に対して発信していく責務がある。今回はコロナ禍におけるケアマネジャーの実態調査について、私たちなりの分析や見解を加えて発表させていただいた。

感染症禍においても、ケアマネジャーが適切に業務を行い、利用者が安心してサービスを利用できるよう、対応策を行政に一方的に委ねるのではなく現場目線で参画していくよう努めていきたい。

(世田谷ケアマネジャー連絡会運営規定第3条)

本会は介護支援専門員としての役割を十分認識し、会員相互の資質の向上を図ると共に、

世田谷区介護保険事業の充実と適正な運営に寄与することを目的とする。

~~~~~

<助言者コメント>

土屋 典子（立正大学社会福祉学部社会福祉学科准教授）

本報告は、未だに感染拡大が続いているコロナウイルスの感染防止策の長期化が、高齢者や家族の生活に大きな変化をもたらし、また、医療機関や介護サービス事業者等にも重大な影響を及ぼしていることを受け、このような状況において、高齢者やその家族の生活を支える支援を行うケアマネジャーが行っている実践を、区内居宅介護支援事業所及び区内高齢者施設に勤務するケアマネジャー等を対象に実態調査を行い、結果を分析したうえで、コロナ禍におけるケアマネジャーの役割や課題等について考察したものである。 本報告の意義として以下3点にまとめた。

1つ目に、コロナウイルス感染防止策が長期化する中での利用者の心身機能の低下と家族の負担への指摘と、これらを防ぐべく、「感染症禍におけるケアマネジメントガイドライン」作成が不可欠であるとの指摘である。報告者らは調査結果より、感染症禍において利用者のサービス利用控え、十分な訪問等が行えない現状、情報把握の難しさ、など多くの課題を明らかにした。そして、感染症禍においてはケアマネジメントの新たなガイドラインの整備は必須であり、そのガイドライン作成にあたってのポイントをもクリアに指摘している。これらの報告から、本報告者らの力量の大きさを窺い知ることができる。

2つ目に、コロナ禍における高齢者施設の「鎖国」的状況に関する報告と、その中にあって、外部資源とつながり、利用者の安心のために苦慮する施設ケアマネジャーの存在、取り組みを明らかにした点は特筆に値する。閉ざされた環境の中で生活する利用者を守るために、外部との連携、協働を保つために、並々ならぬ努力を続けているケアマネジャーたちの声をまとめ、今後に生かそうとする姿勢には頭が下がる。

3つ目に、コロナウイルス感染防止策が長期化し、調査実施者自身が不安を抱え、疲弊する中、このような信頼しうる調査を実施したことの意義である。世田谷ケアマネジャー連絡会は、運営規定第3条において、本会の役割として、世田谷区介護保険事業の充実と適正な運営に寄与することを目的としてあげている。本報告はまさにこの規定を体現するものであり、その姿勢は賞賛に値する。これらの貴重な指摘が今後、感染症禍における世田谷区において、区民の安全で安心した暮らしを守るための具体的な施策に反映されることを期待したい。特に、本報告が指摘している、災害下において、様々な情報がとびかい、必要な情報把握が難しくなる中での、情報整理と情報発信の責任の自覚と、そのための仕組みづくりは、今後世田谷区所管課が早急に着手すべき課題であると認識する。